

細江カトリック教会だより 新年号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

皆さま、あけまして
おめでとうございます。



何か新しいことが始まるという希望と期待に満ちた新しい年、2019年を迎えました。細江教会の上に、また、皆さまお一人お一人の上に神様の祝福をお祈りいたします。

静かな喜びにあふれた降誕節も終わり、教会暦では、年間の季節に入ろうとしています。そして、突然訪れた下関の教会での生活も間もなく1年が過ぎようとしています。皆さまの温かいご理解とご協力により、ここまで務められたこと感謝しております。まだ、未熟な司牧者ですが、少し過越し方を振り返り、また、来るべき日々を見据えて思いを記してみたいと思います。老朽化した建物のように、不具合なところを言えばきりがありませんが、むしろ、細江教会で感じ取った良い点、素晴らしい点について述べてみたいと思います。

まずは、あたたかい、歓迎ムードにあふれた教会だということです。教会と思って飛び込んだ「カトリックセンター」には、いつも明るい声で出迎え

てくれる方がおられます。つい、腰を下ろしておしゃべりしたくなるような雰囲気があります。「おもてなし」と言えば、大げさになりますが、そこに人がいて、相手になってくださるだけでもありがたいことです。いつまでも大事にしたい点です。

教会の行事は、それこそ、次から次へとびっしりつまっていますが、いつの間にか、準備が進み、その時になれば、見事なチームワークで、盛り上がった雰囲気の中、進行してゆきます。長年の伝統のなせるわざでしょうか。つい、行事を整理して、スリム化したらと言いたくなりますが、一つ一つには貴重な歴史が刻まれていることも忘れてはなりません。ただ、新しいこと、今までしなかったことに挑戦することも大切です。恐れずに、取り組んでみましょう。若くない自分にもできることはないかと、ミサ後の聖歌練習を年末から始めました。今年も、少しずつ続けてゆくつもりです。お互いの交流を深めるためにミサ後に、お茶をのみ、おしゃべりをする機会も設けてはと思っています。そして、開かれた下関に、今後さらに増加が予想される外国からの旅行者、留学生、技能実習生をもお迎えする方法を考えることも、一つの課題でしょう。

今年は、フランシスコ教皇が来日される年になりました。教会にとってはもちろん、日本の社会にとっても大きな恵みです。篤い心でお迎えができるよう、一人一人の信仰を一層深める機会といたしましょう。

作道 宗三 神父

地区だより Ⅷ

新下関地区

またここに帰って来られるとは思ってもみませんでした。長女が小学校に上がる直前に夫の転勤が決まり、4年半を柳井で過ごし、再び異動で下関に。柳井からもいつかは動くだろうと覚悟はしていましたが、まさか下関に戻れるとは！きっとまた別の知らない土地に住むのだろう、と勝手に考えていた私の予想とは全く違っていました。子ども達は柳井をすっかり気に入って、こちらに来た時、車が多すぎる、建物が高すぎる、田んぼがない、と嘆いていましたが、少しずつ慣れてきたようです。私は、パイプオルガンを弾くことはもうないのだろう、とこれもまた勝手に考えていたことを嬉しくも裏切られ、オルガンにさわれる喜びをかみしめています。

また、いつ転勤になるかわかりませんが、それは神のみぞ知る……。ここにいられる間は少しでも皆様のお役に立てれば、と思います。これからもどうぞよろしくお願ひします。

松谷 奈穂



クリスマス・チャリティ・コンサート



*左から、ソプラノ坂井里衣さん、マリンバの小野香織さん、オルガンの加藤麻衣子さん。

2018年12月1日、11月中旬のような暖かい天候に恵まれ、また素晴らしい演奏家にも恵まれ、今年のコンサートも荘厳且つ感動的な雰囲気の中で無事終わりました。

約160名の信者さんと一般のお客さんにも足を運んでいただき、皆様の暖かい支援・ご協力のうちに、チャリティコンサートが開催できたことに改めて感謝申し上げます。

今年の演奏会は久々にマリンバを加え、オルガン・ソプラノヴォーカルとのアンサンブルも素晴らしく多くの皆様から、「良かった」「オルガンの響きに感動した」などなどの感想をいただき、実行委員としてホッとするとともに肩の荷が下りた瞬間でした。

更にこの演奏会に作道神父様の演奏参加というハプニング？とも相俟って、救い主の誕生を待ち望む信者さんの顔が一瞬輝いて見えたのは、私のひいき目でしょうか？

また一般の方で下記のような感想文が送られてきましたので、原文のまま掲載させていただきます。

感想文「まず、素晴らしい体験をさせていただいたことをお礼申し上げます。教会に、はいつたことの少ない者の貴重なすばらしい体験でした。三人の演奏者のすばらしい演奏に、とても心地よいひとときを過ごさせていただきました。特に、教会に備え付けのパイプオルガンによって、神の殿堂においては神の声がこのように聞こえてくるのではないかという感動を受けました。機会があれば、また教会の中で音楽を聴かせていただきたいと切望いたします。ありがとうございました。」

「貴重ですばらしい体験」とあり、このコンサートが、教会へ足を運ぶ一助となればと心から祈る次第です。末筆ながら、収益金のなかから3万円をカリタスジャパンを通じて、世界の恵ま

れない人達への支援とさせていただきます。改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。

クリスマス・チャリティ・コンサート
実行委員会

待降節黙想会 12/9 (日)

静かに目をとじて・・・



* 植栗彌神父さまの指導による黙想会

中二階のレンブラント、放蕩息子の帰還の絵が配られ、その黙想から始まりました。

人間の本当の姿。「私は優れている、正しい」という自己過信は原罪の結果であり、そこから解き放されることによって、人は初めて許され、自由と開放を手に入れる。かたくなな心を解きほぐし、己の小ささを知る放蕩息子の「砕かれた心」をもって、父である主に向かうとき、神の働きが私の中に現れる・・・と。

易しい言葉で、しみいるような時間がゆっくりと流れます。伝統的な禅の呼吸で、自らに沈潜してゆく時間。

最後の黙想。「目を閉じて、想像してみましよう。」と植栗神父様がおっしゃいました。

そこは白いエルサレムの神殿の城壁です。高い頂のドームが、燦然と金色に輝いています。中に入ると広い回廊に、参詣の群衆が行き来しています。さらに進んで神殿の中庭に入ると、一人の背の高い白髯の老人が、行き交う人々の中から進み出て、嬰兒を抱いた

夫婦に腕を差し伸べます。シメオンです。わたしも腕を差し伸べます。初児を神殿に奉獻に来た夫婦の妻の方は、まだ少女とってよい若さですが、戸惑いながら、老人の腕に幼子を預けます。そっと抱くと、赤ちゃんは首を傾げ、小さな手を開いたり、まだ歯のない笑顔を見せたり、いとけなく、この腕にいます。

半日の黙想会でしたが、まるで修道院であずかる黙想会のように、静謐なものでした。そして多様でカラフルでした。参加していた人が、それぞれ腕の中の幼子キリストのお顔と向き合っ、その目を覗き込んだ経験。クリスマスを、澄んだ心で迎えることができるように。

マリア・マグダレーナ 稲垣 優美子

主のご降誕ミサ 12/24

ミサの前17時より小聖堂において、小笹美夏さんと中谷怜奈さんの洗礼式が行われました。



* 受洗おめでとう!! 喜びの日!

コルカタのテレサ小笹美夏さんと

マリア フランシスカ中谷怜奈さん。

☆聖夜ミサの始まり・・・暗闇の中を、祈りが続く。



☆天使幼稚園の子ども達と
一緒にイエスさまの誕生を祝う。



幼児洗礼 12/30 聖家族の日



*2017年12月にこの教会で結婚式を挙げた、ホアンさんとマイさん。そのお二人にアインちゃんが誕生しました。代母はキリスト・イエズスの宣教会シスターAmabilis。

この幼子が健やかに成長されますように、見守り祈りたいと思います。



今年の抱負 or 希望 2019

いのしし歳の方々にお聞きしました。

*二年前の21歳の夏、私は山口から東京へ上京しました。家族と離れ一人の時間が増え、自然と遠いところで暮らす大切な人たちの健康を祈るようにな

りました。教会へ行くことも以前までは、あまり深く考えず“家族について行く”という意識でしたが、今では教会へ行くことの大切さを実感しています。これからも少しでも多くの人が信仰でつながるよう、お祈りしたいと思います。

アグネス 林 見恵



*My new years resolution is to live with a Marian Heart. A heart that is patient. A heart that cares for others. A heart that serves others. A heart that is grateful to GOD

訳) 私の今年一年の抱負は、聖母マリアの心を持って過ごすことです。忍耐強く寛大な心、他者への思いやりの心、他者への奉仕の心、神様への感謝の心。これらを忘れずに過ごしていきたいと思っています。

カスタンニエーダ・エンジェル



*今年(亥)は年女、息子、孫も年男になります。孫とはいつも干支が一緒にイェーとやっていたのですが、サッカーばかりでほとんど遊びに来ることがなくなりました。結婚生活も50年過ぎ、色々ありましたが、孫などに囲まれて幸せな日々を送られることに感謝しております。11月に入り、たった一人の叔父が亡くなり、二日後に友達が亡くなり、そんな時、学生時代によく遊びに来ていた女性が4年ぶりに新しい命を授かったとの連絡が入りとても嬉しく思いました。不幸な事ばかりではない、喜びもあると感じ、この先の人生 神さまと共に歩んでいきたいと思っています。

井石 ヒロミ